

## 「中学生ら暴行：知的障害者狙い」の報道に接して

先週の「暴行：知的障害者狙い 中学生ら8人を逮捕」の報道を目にした方もいると思う。

事件は、中学生6人を含む少年たちが、「自分より弱そうな人を狙い」、知的障害者や特別支援学級に在籍する中学生に暴行や恐喝を繰り返したとして、強盗や恐喝などの疑いで逮捕されたというものであった。

ある知的障害児の親から、この報道に接して次のようなメールが届いた。

【 知的障害者への暴行事件。

健常者でも、学校でも、職場でも、なんとかハラスメントと言われるものは多々あるようですが、本当に悲しくなりますよね。

子ども達の事を思うとどうしたら良いのか、親としては本当に不安になります。

不安になってもしょうがないのでどうしたものか??

そうだね、いっぱい仲間を作れば良いんじゃないのかな?

親、兄弟、先生、お友達、相談できる人、仲間をいっぱい作っておくこと。

自分のマイナス部分をマイナスと認め、補える仲間。

それぞれに、それぞれのマイナスとプラスを認め、支えあえる仲間がいっぱい出来れば、子どもは楽しく暮らせるのかな、そんな事を考えてしまいました。 】

こうした報道一つに接しても、我が子の身に不安を感じて心を痛める親心を知ると、まだまだ未熟なこの社会の自分もその一員だけに、何と声をかければいいのか、言葉が見つからない……。

この親御さんのように、単に不安がらずに、支え合う仲間の大事さ、必要性を考える前向きな親心には頼もしさを感じるし、この前向きさを我々は何としても支えていかなくてはならないと思う。

やはり、地域の方々が、何かにつけて目配りし見守っていく地域社会が大事とつくづく思う。

それにしても、自分より弱そうな立場の人を守るからこそが「人としての真の強さであり、勇気だ!」と、周りの大人(親、教師、等々)はこの少年たちと語り合う機会はなかったのだろうか?と、つい思ってしまう。